

活動名 虹の鯉のぼりプロジェクト	団体名	浅江まちづくりの会
	地域	山口県光市
	代表者	代表 矢部 東洋司
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>地元地域の光市立浅江中学校の生徒たちが、全国の中高生が参加しての防災研修「シンサイミライ学校交流～災間を生きる～」に参加し、東日本大震災で被災した宮城県東松島市とご縁を頂きました。その貴重な体験を地域の会合でも発表し、子供たちの「私たちは災間に生きている、次に来る災害で一人も命を落とさない為にも助け合いたい」という想いは私たちの心にもしっかりと届きました。この学びを忘れないためにも宮城県東松島市で行われている「青い鯉のぼりプロジェクト」に賛同し、地域としても賛同して一緒に青い鯉のぼりを集めて送りました。そこで、残った青い鯉のぼり以外の親鯉などの鯉のぼりを集め、東日本大震災を、生徒たちが学んできた事、想いを忘れないために「お父さん、お母さんも見守っているよ」という想いで、地元の宝であり東松島市と海と空でつながっている虹ヶ浜海岸に色とりどりの鯉のぼりを掲げるプロジェクトです。</p> <p>◆実施時期 平成 26 年 4 月 26 日(土) ～ 平成 26 年 5 月 11 日(日) 山口県光市虹ヶ浜</p> <p>◆参加人数 鯉のぼり掲揚日 14 日間(2 日間は雨で掲揚できず) 来場者数 3000 人以上 5 月 3 日(土)「虹の鯉のぼりの下に集う会」 参加者約 200 名 参加総人員:約 3,200 名以上</p>		



設置風景、たくさんの人が助けてくれました



「虹の鯉のぼりプロジェクト」の趣旨説明看板



光市虹ヶ浜に元気よく鯉のぼりが泳ぎました！



「虹の鯉のぼりの下に集う会」みんなで大合唱

◆実施に伴う効果

今回、初めての取り組みでしたので不安はありましたが、小学校、中学校、商店会、地元企業からの協力もあり、またメディアにも多く取り上げていただいた事により浅江地区、光市外からもたくさんの人に訪れていただきました。

結果、地域の子供から年配者までが来年も必ず実施するという結束力が生れ、このプロジェクトが未来への希望になりました。

◆苦労した点

一番苦労したのは、他団体・関係者との調整・打ち合わせです。

今回、初めてのプロジェクトでしたので、当会が主催で開催しましたが、おかげ様で想像以上の広がりとなり、たくさんの団体・個人から協力をいただきました。

その各打ち合わせ・調整を当会が全て伺って行っただけで、目まぐるしい忙しさでした。

また、砂浜に鯉のぼりを掲げた前例がなく、支柱の仕組みや、虹ヶ浜の占有許可をいただく山口県周南港湾事務所に安全の為に強度計算などを求められて苦労しました。

◆今後の課題・発展の方向性

今回は、初めての開催でしたので当会がリーダーシップをとって開催しました。

そのかいあって、たくさんのご協力もあり、気持ちを一つにする事ができましたので、来年度の開催は、初めから他団体などにも声を掛けて実行委員会のように皆が主体者となって企画しながら進めていけたらと思います。

また、鯉のぼりの掲揚は年に一回ですが、間の秋ぐらいに東松島市の事や東日本大震災の事を想い、防災・減災の事を学んだり体感したりできる事を開催し、中学生たちの学んできた「私たちは災間を生きている」という想いを常に忘れないプロジェクトにしていけたらと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

今回は、助成をいただき誠にありがとうございました。

助成をいただいた事によりマツダ財団の信用も加わり、当会だけでは実現できなかった内容と規模に広がったように思います。

もちろん青少年の健全育成という目的をもった助成金をいただいたというプレッシャーもありましたが、おかげ様でより強い地域の繋がりが生れ、子供たちが東日本大震災の学習で学んできた事、想いを忘れないためにも来年以降も続けて開催しようという事が決まり、今回の目的が果たせたように思います。

今後は年間を通して、青少年の健全育成に取り組めるように企画・実現してまいりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。